

社会的認証システム－第三者認証(ステップ3) 審査シート

団体名: 特定非営利法人コンサウェル

訪問調査日: 2012年11月2日(金)

評価大項目(分類)	評価中項目	絶対評価コメント	達成率
I. 組織ミッション(社会的使命)と事業の推進	[1] 組織ミッション(社会的使命)の確立	組織ミッションは定款や会員募集用チラシ、ホームページ、公益活動ポータルサイトきょうえん等、多様に公開されている。非営利組織としての位置付けが定款・事業計画書・決算報告書からも確認できる。組織ミッションを達成するための公益的な基幹事業として、デジタルアーカイブ事業やフィリピンミンダナオ島の日本人2・3世に対する日本文化継承等、国際交流支援事業が確認できる。	21/24 達成率 88%
	[2] 組織ミッションと事業の策定	中長期的なビジョン・計画書が確認できるが、内容により具体性が求められる。また、単年度事業計画は理事会議案書等からも確認できる。計画は事務局案を作成後、理事会・総会を経て決定されている状況を聞き取ることができる。	
II. 組織と経営管理	[1] 意志決定機関とガバナンス	定款に基づき、意思決定機関として、理事会・総会を設置し、機能している状況が確認できる。著作権に関する研修会等、運営上必要となるコンプライアンスの把握や法人内周知、研修への参加等の取組みが行われている。専門家(税理士)による適切なアドバイスを受けており、法人の経営環境は監事(税理士)による内部監査が行われている。	20/31 達成率 65%
	[2] 適切な財務計画と執行・管理	経営計画書は策定されておらず確認できない。会費・寄附金・講習会等の事業収入実績が確認できる。	
	[3] 職員と労働環境	雇用職員を有しておらず、評価項目としては非該当	
III. 事務局の執行体制と管理	[1] 組織・事務局体制の確立	事務局は、理事長宅で登記・機能設定している。全部事項証明書から法人の登記事項が確認でき、所轄庁への報告等、必要な手続が行われている。重要な書類は理事長宅にて保管・管理されている状況が確認できる。	20/31 達成率 65%
	[2] 会計全般	現金を直接扱わないよう事務処理の手順を整理する等、慣例的なルールに沿って経理処理が行われているが、経理規定等は作成されていない。法人の監事である税理士からアドバイスを得ている。	
	[3] 事業を推進するための体制やルール	単年度事業計画に基づく積極的な事業の推進状況を聞き取ることができ、メールマガジンやニュースレター等で、多様なステークホルダーと成果を共有している。	
IV. 社会資源の活用	[1] 社会資源(企業/行政/市民など)の連携と活用	デジタル・アーキビスト講習会やイベント毎にボランティアの募集・受入れを行っている。ミンダナオ国際大学とのデジタル・アーカイブ事業やNPO法人デジタル・アーキビスト資格認定機構との常態的な協働実績の他、株式会社インフォマージュ等、企業との協働実績も確認できる。	9/16 達成率 56%
V. 情報の公開と社会的信頼	[1] 情報の公開	法人の情報は、ホームページやメールマガジン、ニュースレター(500部)の発行、きょうえんなどの外部データベースで公開が積極的になされている。HPの定期的な更新が行われている他、メーリングリストからも情報公開の作業が確認できる。	8/18 達成率 44%
	[2] 第三者による評価	民間財団への助成申請を行ったことはあるが、助成給付を受けた実績はまだない。	
VI. 組織のリスクマネジメントと社会的責任の追求	[1] 組織のリスクマネジメント	重要書類は理事長宅である事務局にて保管・管理し、デジタルデータのバックアップやウイルス対策は行っているが、規定は作成していない。プライバシーポリシーを作成し、公開している。	5/18 達成率 28%
	[2] 組織の社会的責任の追求	特筆的に評価すべき活動は行われていない。	
【相対評価(セルフレビュー)/総括コメント】			83/138 総合達成率 60%
<p>当法人は、設立してからまだ2年半ですが、理事・会員をはじめ、様々な方々のご協力やご支援を得ながら、社会的課題の解決を行い、次世代により良い社会を継承するための活動を行っています。会員の+ワン+αの活動、リタイヤ世代の生きがいづくりなどにおいて、それぞれの会員達が今まで積み重ねてきた知識や経験をコンサウェルに結集することで、社会へ還元することを目指すことで、会員もまた輝ける場であることを大切にしています。</p> <p>法人では、会員諸氏からいただいた会費や講習会等の収益金を、より多く社会に還元することを優先するため、現在専用の事務所を持たず、会長宅を事務所として兼用し、アットホームな雰囲気の中で活動を行っています。</p> <p>法人設立からの2年間、地域の様々な文化所産から景観、さらには個人の記憶に至るまでをデジタル情報として保存し活用することを目的とするデジタルアーカイブを担う人材育成のための講習会の開催、発展途上国の若者支援など、極めてささやかではありますが実績を残すことができました。前者については、当法人が掲げる次世代によりよい社会を継承することへの基礎づくりとしての人材育成を行ってきましたが、それらの人材を活用した実践へと展開する時期にきています。</p> <p>また後者については、ミンダナオ国際大学と共同して日比相互補完活動のために資する人材育成を具体化する時期にきています。これらを達成することが、本法人の理念の実現のための一歩前進であると考えています。</p> <p>本法人は、Contribute(貢献)・Support(援助)・Welfare(福祉)を合わせたものを団体名として、社会にある様々な問題・課題に対して、リタイヤ世代の知恵やノウハウを結集して、法人として対応していただくだけではなく、会員相互の生きがい・輝きにもつなげていきたいと考え、文化の継承事業や人材育成事業を推進されています。理事長は大学の教員・研究者であり、自らが中心となって法人運営を積極的に担っておられ、法人および組織的な設えについては、十分な認識と見識をお持ちであると見受けられます。しかし、組織的な運営とその実績の集積に関しては、これからの課題として認識されているところでもありますので、その課題に対しても継続した取組みが求められます。今後も継続した活動に期待ができますので、本社会的認証システム－第三者認証(ステップ3)において認証しました。</p>			